

真名川ダムの弾力的管理試験「フラッシュ放流」について

1. 真名川ダムの弾力的管理試験「フラッシュ放流」について

真名川の河川環境の保全を目的とする弾力的管理試験「フラッシュ放流」を実施します。フラッシュ放流とは活用容量（洪水調節に備えた空き容量の一部に貯めた水）の水を数時間放流し、河床を洗浄することで、健全な河川環境を保全するための方法です。（フラッシュ flush とは排砂，掃流のこと）

アユの釣り人や川遊びの人たちの安全のために、下記内容の事前報道をお願いします。

真名川ダムでは、平成17年8月2日(火)午後2時から、河川環境の保全を目的としてフラッシュ放流の試験を実施します。この試験にともない、ダムより下流の真名川では、急激に水かさが50cm～100cm程度増加します。放流時はサイレンによる警報及び巡視により、事前にお知らせしますので、すみやかに川から上がってください。ご協力をお願いします。

2. 真名川ダムの弾力試験の流れ

- ・ 平成12年度～14年度の試験では、ダムから真名川頭首工（五条方地先）までの約4kmの減水区間で「維持流量を増量することで、景観の向上及び藻類の生育に好適な環境を整えることによって、アユの生息環境が改善される」という検討結果をまとめました。
- ・ 平成15年度には真名川頭首工より下流を目標として、真名川の河床の攪乱を目的とするフラッシュ放流（30 m³/s）の試験を実施しました。この放流により河川環境保全の向上がみられました。
- ・ 平成16年度はフラッシュ放流（50m³/s）に河川土砂還元（ダム貯水池内の堆砂採取し、下流河川への運搬・置土）を組み合わせることにより、フラッシュ放流の効果を増大させる可能性について試験を実施しました。これより土砂還元が藻類の剥離に効果的であることが確認されました。
- ・ 平成17年度は、藻類の生育が活発な夏場にフラッシュ放流を実施し、魚類の生息環境の改善効果を調査します。今回の試験で使用する流水は約40万立方メートルです。これは、7月の梅雨時に弾力的管理により約130万立方メートルの流水を貯留した一部です。

3 . フラッシュ放流の放流方法

午後2時、ダムから放流開始、急激な下流の水位上昇を避けるため徐々に増量し、午後3時30分頃から午後6時頃まで毎秒25トンを放流します。その後、徐々に放流量を減量させ、午後7時頃に通常の放流量（毎秒0.67 m³ / s）に戻します。

下流の各地点で水位が上昇始める時刻予定は、真名川ダム下流約6キロ地点の「八千代橋」で午後3時30分頃、同約10キロ地点の「富田大橋」で午後4時30分頃。フラッシュ放流により、水位が上昇している時間は最大で7時間程度続きます。

この放流では、九頭竜川本川は発電等の関係機関の協力を得て、河川の水位変動をできるだけ少なくします。

ダムからの放流のスケジュールは、別紙「真名川ダムからのフラッシュ放流計画及び真名川
の主な地点の流量変化予想」のとおりです。

4 . 放流体制による安全管理

フラッシュ放流の試験を実施するにあたり、河川の巡視に加え、河川利用者（釣り人等）の安全確保を徹底するため、河川への出入り口には警備員の配置、河川への立入禁止の看板を設置します。